

広報かなえ

Public Relations Magazine



CONTENTS

- **地域振興**
リア切石工区・妙琴公園現地視察
- **子どもを育む**
体験学習事業
- **生活安全**
「電話によるお金詐欺」に注意!
- **健康福祉**
夏の絵手紙教室
- **環境衛生**
組成調査・視察研修の報告
- **消防団**
100周年記念事業スタート

コラムかなえ

現在、消防団員が減少し、火災現場や訓練にも影響が出てきています。

消防団の活動は、災害現場や訓練など大変なことには、とてもやりがいを感じられます。

私たちと共に鼎地区を守っていく仲間を募集しますので、興味のある方、聞きたいことのある方は左のメールアドレスまで連絡をお願いします。

鼎消防団100周年を記念して消防の勧誘動画も作成いたしましたので、こちらも是非ご視聴ください。

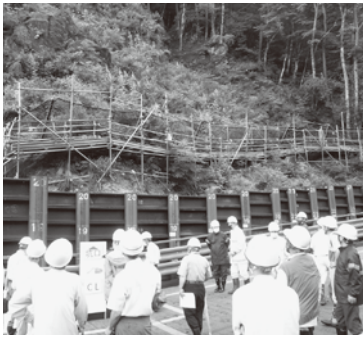
15分団連絡先:
15bundan.kanae@gmail.com



動画はこちらから
ご覧になれます

地域振興

妙琴公園リニア工事現場 の現地視察を経て 建設部長 前澤清隆



本抗の予定地で説明を受ける

妙琴公園将来構想検討委員
会では公園の在り方について
妙琴公園の将来をどのように
するのかという将来構想を検
討中であります。リニア工事
が終了するまでは手が付けら
れませんが、妙琴公園は風致
公園としての位置付けがあり、
また妙琴公園の近隣には松川
があります。この松川は、清
水を利用した飯田市民の喉を
潤す「みずがめ」であります。



トンネル工事用の大型重機

こうした近隣の現状を念頭に
将来の形を描いていかなくて
はなりません。まちづくり委員
会と一緒に検討委員会
が腕を揮うことを期待します。
リニア中央新幹線の現地視
察も今回で3回目となります
が、毎回新鮮な感覚で見学さ
せていただいております。最
新鋭の工事用機械を目の当た
りにして担当者から工事に向
けた熱き思いのこもった説明
を聞き、感動を抱いた次第で
あります。「この建設現場に
於いてだけは事故は起きない
だろう」と思う程に、工事に
関わる皆様ひとり一人の思い
が、ひしひしと伝わってきま
した。安全を第一にして工事
が一日も早く終わることを期

待っています。

東京と名古屋間を一気に走
る。「飯田に止まってくれる
だろうか」と思う程に早い。

片や飯田駅の構想について
7月16日には飯田市長が中心
となって「リニアの飯田駅つ
てどうなるの」と題して話し
合われました。拝聴させてい
ただきましたが、素晴らしい
駅ができるんですね。こうし
て飯田駅ができ、リニアが通
るまち飯田市が誕生します。
将来が楽しみです。新しい
時代の幕開けとなり期待され
る飯田市となることでしょう。
飯田市民のみならず、全国の
皆様が楽しみにしていること
と拝察いたします。リニア工
事頑張れ。



完成した工事用トンネル前で集合写真

炊き出し訓練を実施

赤十字奉仕団県分団
分団長 関口敦子

県赤十字奉仕団では、7月
9日に各地区の正副班長を対
象に炊き出し訓練を実施いた
しました。

講師に本団の副委員長2名
と大萬様からお迎えして、
「災害時における炊き出しの
基本を学ぶ。各地区で指導が
できるようにする。ガス釜の
正しい設置の仕方を身に付け
る」を目標に食中毒及び感染
対策を厳守して、一つ一つの
作業を確認しながら行いまし
た。9月の防災訓練時に炊き
出し訓練ができ、皆様に試食
していただけることを願って、
また、災害時等にお年寄りか
ら子どもまで広い年代層の口
に入ることを考え、安全で温
かく美味しい食事が提供でき
ますように、技術の習得・向
上に努めて参ります。



令和4年度 県地区パワーアップ事業一覧

No.	事業名 (申請団体)	助成金額
①	妙琴公園愛護会倉庫修繕 (妙琴公園愛護会)	149,000
②	水難救助ボート購入事業 (西県区)	157,000
③	県中学校中庭花壇整備事業 (県中学校PTA)	84,000
④	子供獅子舞獅子頭導入事業 (名古熊獅子舞保存会)	200,000
⑤	コロナ禍だからこそ聴いてほしい!合同講演会チラシ作成配布事業 (県小学校PTA)	61,000
⑥	ワイアレスのアンブとハンズフリーマイクセット (県公民館 一色分館)	182,000
⑦	県公民館・県文化センターロビー環境整備事業 (県公民館)	298,000
⑧	成人式名称変更に伴う物品整備事業 (県公民館)	68,000
⑨	県消防団100周年記念誌制作事業 (県消防団100周年記念事業実行委員会)	236,000
合計	9事業 (8団体)	1,435,000

県地区パワーアップ 事業を決定

事業を通じて、県地区基本
構想・基本計画「人・暮ら
し・文化が潤う 夢ある かな
え」の実現に向けて、広く地
区の資質向上につながってい
くことが期待されます。



予選2日目、山梨敷島ウイングスに勝利も次戦の岡山浅口に敗退惜しくも決勝リーグ進出ならず

男女混合チームの県VESP Aは、長野県大会を優勝し、8月10日から12日かけて開催された第42回全日本小学生バレーボール全国大会に、混合の部長野県代表として参加しました。6月からの予選大会から全国大会を通して選手の成長を日々感じ、指導者、保護者の皆さまとともに熱く取り組み、格別の喜びを感じつつ地域の皆さまから励ましを頂戴する充実した日々でした。今後とも県VESP Aを見守りいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

県シニアバレーボール VESPA 全国大会出場
代表・監督 臼井秀明



県地区ホームページは多様なメニューで情報も盛りだくさん

昨年12月から公開している県地区ホームページは、各エリアのホームページ担当がタイムリーな情報の発信に努め、県に住んでいる人も、これから住んでみたい人も、誰もが「素敵な地域だな」と感じてもらえるようなサイトを目指して更新作業などに取り組んでいます。ホームページの充実や活用について検討するため、担当者会議を開催し、サイトへのアクセス数などを分析するなかで、子育て世代や高齢者の皆さまなど、もっと多くの方に見てもらうことが重要という意見が多く上げられま

県ホームページのPRを推進

す。また、魅力あるコンテンツになるように各地区の担当を中心に取り組んでいきますのでご理解とご協力をお願いします。



オリジナルデザインのTシャツでPRを計画

水・灌漑用水・防火用水である。松川ダム放水により現場の石や砂利の部分が削られて崩れ、取水不可能の状況に至っています。水の取り入れ口は、水量を調整する水門であり、各支流に枝分かれして県地区内の中心を流れる大動脈としての存在であり、県地区住民の命と暮らしを支える生活用水・灌漑用水・防火用水であ

り、支流河川の隅々まで円滑に供給し、環境衛生・家庭生活に貢献しているなどの観点から、日常確実に水量の維持に努めなければなりません。県・市を問わず行政の役割も極めて重要です。また、温暖化が進むにつれて干ばつ等危惧される事態が現実になる恐れを考慮すると、事前に対策を講じることが最優先かと考えています。冬季の水量の少ない渇水期に大型重機を投入し、早期に改修等の着工されることを切に要望しています。

「宝の水」を守る
松川井水利組合
代表 奥村 功

地区内における市道や井水の補修等の依頼や要望は、各区の担当役員を通じて、自治体振興センターにご連絡をお願いいたします。



車川井の松川からの取り入れ口



体験学習

名古屋 小澤 健

コロナ感染者も減少してきた中、7月2日に体験学習が開催されました。小4・5・6年生を対象に「フラワーアレンジメント」「勾玉づくり」「木の表札づくり」の三つの講座が開講され、熱中症アラートが発出された暑い中、子ども達は笑顔で参加してくれました。

「勾玉づくり」の参加者は17名。まずは勾玉の謂れを聞き、その後子ども達でも簡単に削ることができる柔らかい石を用いて製作に。石に勾玉



の形を描き、木の台の上で紙やすりで削っていく。大変そうだった要素は二つ。一つは姿勢。床にブルーシートを敷きそこで作業をしていくが、普段慣れない腰を屈めた姿勢を継続しなければならず子どもでも腰が痛そうに。二つ目は紙やすりで勾玉の丸みを出すところ。

仕上げ作業（水で洗いながらの磨き上げ作業）と、出来上がった勾玉にひもを通し、首から下げる時にみた子ども達の満足げな笑顔が忘れられません。良い体験学習となりました。



一色 来年は笑顔と出会えますように

一色支部では、小学生の夏休み前の支部子ども会に合わ

せ、体験事業として「七夕飾り作り」、夏休み中には子ども居場所作り事業「一色塾」として、1日目は「お菓子釣りゲーム」2日目は飯田市環境課による「ゴミ分別ゲーム・環境かるた・環境すごろく」3日目は「水引講座・あわじ結びとその応用編」と計3日間、さらに一色区民まつりには体験事業で作った七夕飾りを展示し、来場した皆さんに願い事を書いていただき飾り付けをする計画をいたしました。

ところが、いずれの行事もコロナ感染症の爆発的な増加と子ども達の安全を第一に考えた結果、中止を余儀なくされました。各行事とも子ども達も楽しみにしていただろうし、私達運営側も子ども達のにこやかな顔と出会えることを待ち望んでいただけに残念でなりません。冬には世代間交流事業が予定されていますが、開催できることを切に願うばかりです。

現在、毎週木曜日の朝の見守り活動は継続中です。引き続き子ども達の安全と安心、そして笑顔のために頑張ってください。

上山 贈りもの123

①小学生に贈りもの

新型コロナウイルス感染症拡大の波が子どもにも押し寄せ「宿題やらまい会」も中止しました。様々な行事が中止となる中で、夏休みを楽しんでもらおうと、119名の小学生に、元気に取り組んだラジオ体操の場で花火をプレゼントしました。順番を守り「ありがとう」と言えた子ども達です。一緒に届けた画用紙に夏の思い出が込められるのを楽しみにしています。



②中学生にも贈りもの

中学生も頑張っています。7月の体験学習にも上山の中学生の参加があり矢高中央公園掃除にも多くの姿がありました。地域の一員としての中学生の関りは嬉しいものです。そこで68名の中学生には、図書券を贈りました。夏休み何を手にしたことでしよう。

③安全見守りの方へ贈りもの

上山第二踏切で、20年の長きにわたり子ども達の登校の安全を見守り続けてくださったお二人の方に、感謝の気持ちを込めて、お礼の色紙と記念の写真を贈らせていただきました。

○山田重利さん(写真右) 「自治会回覧板の呼びかけで、誰かがやらなきゃ。5人で協力して始めた。やめるにやめられんな。」

○松田良雄さん(写真左) 「じゃんけんする子、遠回りを聞く子、十人十色ななか面白。」

お年を召されていますが、これからも子ども達の見守りをお願いします。



ありがとうございます(拍手拍手)

生活安全

7月22日～31日まで 『夏の交通安全やまびこ運動』が行われました

人波ルート作戦

夏の交通安全やまびこ運動初日の22日(金)午前7時より、東鼎交差点にて人波ルート作戦が行われました。下山・東鼎・西鼎・下茶屋・中平の交通指導員及び女性部員46名が参加しました。全ての座席におけるシートベルト着用用の徹底をお願いします。



交通指導所

24日(日)午前10時より、新飯田橋交差点にて交通指導所を開設しました。皆さんは、この活動で配布している交通事故防止(帽子)マスコットをご存じですか?これは女性部が、コーヒーマイルカカップに黄色い紐を巻き付けて手作りしたものです。作成するのに時間はかかりますが、交通事故がないようにと心を込めて作成してきました。事業が始まったのはもう20年以上も前ですが、女性部の人手不足や手間を考え事業を廃止することになりました。そのため、今回の活動でマスコットの配布は終了となります。今お手元をお持ちの方はぜひ、マスコットに込められた思いを大切にしてください、目につくところに飾ってください。



鼎あかり保育園 交通安全教室



6月14日(火)鼎あかり保育園で交通安全教室が行われました。天気はいにくの雨模様。

園2階リズム室での実施となりました。園児と先生方を前官の挨拶でいよいよ開始です。最初に交通指導を易くしたお話です。支援センターの方と着ぐるみのトラ君と一緒に登場して園児のつかみはばつちりです。引き込まれるように横断歩道の渡り方や信号機の見方、シートベルトの大切さについて聞き入っていました。

前後、車の停止を確認」と、道路の横断にはいくつもの段階が必要で、園児には大変そうでした。ここで交通安全指導員が寄り添います。手を挙げるポイントや左右後方等の確認について園児に声をかけたり、一緒に手をあげたりしてサポートをしました。年少さんから年長さんまで全部の園児の皆さんが元氣よく、楽しく交通安全について学びました。

「電話でお金詐欺」に注意! 家族・警察(☎9110)へまず相談

第3回
ながの特殊詐欺撲滅減刑柳受賞作品

知事賞(一般の部) 雅号 つば十郎
鳴るのなら 止むまで待とう 留守電で

大賞(一般の部) 雅号 池蛙
子や孫と 顔見て話して 防ぐ詐欺

知事賞(中学・高校生の部) 雅号 通りすがり
「だまされん」 思い込みが 命取り

大賞(中学・高校生の部) 雅号 たくに-j.p.
詐欺予防 親子の絆が 効くワクチン

最近の特殊詐欺の手口

キャッシュカードを狙った詐欺

他人にキャッシュカードは渡さない!
警察官や金融機関の職員等をかたがて、「キャッシュカードを交換する必要がある」などと言って、カードをだまし取る(すり替える)もの



架空料金請求詐欺

電子マネーの番号を教えなさい!
コンテンツ利用の未納料金やパソコンのウイルス感染修理等を名目として、支払いのため電子マネーを購入させ、顔面金額をだまし取るもの



オレオレ詐欺

見知らぬ人にお金を渡さない!
息子や孫、会社の上司、医療機関の職員などを名乗って電話で、「すぐにお金が必要」などと言って、お金やキャッシュカードをだまし取るもの



還付金詐欺

ATMを操作しても 還付金は受け取れない!
医療費の還付金があるなどかたがて、ATMに不慣れな高齢者を言葉巧みに誘導し、お金を振り込ませるもの



ウイルス感染 未納料金 + 電子マネー = サギ

ATM + 還付金 = サギ

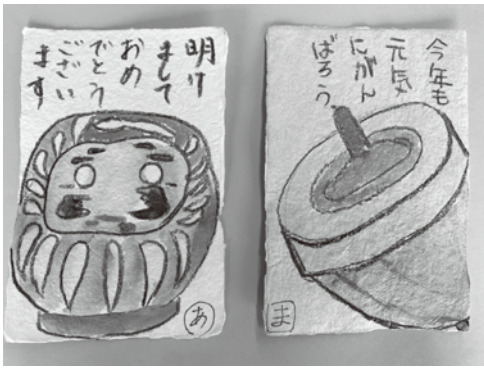
健康福祉

コマやダルマたち

ボランティア部会長
(下山) 宮島 肇

「絵手紙、かきませんか？」
こんな呼びかけで集まってくれたのは、鼎中学校の生徒7人。

絵手紙の題材はコマやダルマたち。え？夏なのに……。実は年賀状として贈る計画です。あて先は、鼎地区の一人暮らしの高齢約280名のみな



さんです。

絵手紙の描き方を教えてくださったのは、小森ゆみこ先生。いわく、「はがきの紙からはみ出すように!」、「色はあざやかにね」、「もらった方が元気になるように描けるといいね」。

参加してくれた生徒さんたちは、コロナ対策もあつてか、静かな部屋で、ひたすら絵筆を動かしていました。

終わってみて、中学生からは「楽しかった」、作品を見合せて「上手だね」というささやきが聞こえてきました。

さて、年賀状のあて先は280名ですよ。次回は、もっと多くの参加者の皆さんと絵手紙を描くことが願いです。

ふれあいサロン

東鼎支部長
安藤 浩治

東鼎健康福祉委員会では、地区の高齢者を対象として、健康増進と健康維持、また介護予防を目的とした転倒防止予防体操教室を毎月第1・第3水曜日の午後1時間、東鼎公民館にて開催しております。体操講師の指導のもと、ストレッチで体をほぐしたあとに、脳トレや運動をゲーム感覚で行います。認知症予防運

健康教室

上山支部長
細井 ひろみ

いつまでも続くコロナ禍で、高齢者は家から出られず、人と話す機会も少なくなり、認知症の方や施設へ入所される方が増えています。

そこで、上山支部では「認知症予防」をテーマに健康教室を開催し、保健師さんの話を聞き、体操をしました。

おかげで、久しぶりに体を動かし心身ともにリラックスすることができました。コロナ禍の今こそ、このよ



うな健康教室が必要ですが、コロナウイルスの感染拡大で高齢者の重症化リスクを考えると、簡単に開催するわけにもいかず、何度となく中止を余儀なくされました。その度

に、外出支援事業に切り替えて、上山区民センターまで来ていただき、センターの外で健康チェックをしたり、友人とおしゃべりをして交流したりしました。

楽しそうに話をしている姿を見ていると、マスクを外して思い切り笑い合える日が一日も早く来ることを願わずにはいられません。

動は、ゴムチューブやバランスボールを使用して行いますが、個人に合わせた強さに調整ができるので、各自に合わせた運動を無理なく行うことができます。

コロナウイルス感染防止のため、受付にて検温を行い、マスク着用・換気・前後左右の間隔をあけるなどの対策をしながら行っています。

高齢者の皆さんは、健康で元気に、生涯現役を目指したいと願い、毎回楽しみに参加してくれています。これから



も、ふれあいの輪を広げるためにも継続していきたくと思っています。

環境衛生

組成調査・視察研修の報告

副委員長 白木 郁夫

日頃より環境衛生委員会事業にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

環境衛生委員会では、去る7月6日(水)に組成調査と視察研修を行い、10名の役員が参加しました。

組成調査はグリーンバレー千代、視察研修は、前田産業株式会社で実施しました。

グリーンバレー千代は、飯田市の最終処分場として一般家庭から出された埋立ごみを受け入れていきます。回収後は細かく破碎した後に埋め立てています。現在では約46%が埋まり、残り十数年でいっぱいになる見込みとのこと。組成調査では、回収された埋立ごみを開封し、本来の埋

立ごみとガラス瓶・ペットボトル・金属類の資源ごみ、燃やすごみなどの17種類に分別しました。

まだまだ資源となるごみも多く、分別の大切さと埋立ごみを減らす事の大切さを痛感しました。

前田産業株式会社では、資源ごみ(瓶・金属・紙・容器プラ)を県内外のリサイクル工場へ送るための中間処理を行っています。

研修では、瓶の仕分け、プラごみ・アルミ缶・紙・段ボールの仕分け及び圧縮作業を見学し、圧縮された資源はブロック状に梱包され、各リサイクル工場に送られます。その後、リサイクル製品に再製されるなど、市場に戻ってくるシステムを伺いました。プラスチックごみの削減を



いろんなごみがありました



きれいに梱包されてリサイクル工場へ

目的とする「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が2022年4月に施行されました。日々の生活の中では「プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル」を積極的に取り組みたいものです。

環境問題は、プラスチックの海洋汚染及び近年の自然災害にも関係し、大きな問題となっております。今後ともごみの分別および埋立ごみの削減にご協力をお願いいたします。

ポイ捨てはやめよう

下茶屋支部長 鈴木 政宏

道端などにごみのポイ捨てを見かけます。コロナ禍となり、マスクのポイ捨てもあり、マスキのポイ捨てもありません。ポイ捨ては、まちなみや、自然の中で分解されにくいので、いつまでも海に残り続けています。海の生物にも、悪影響を及ぼしています。世界で大きな問題となっている、海洋ごみ問題です。私達が、便利な暮らしや、豊かな社会を追い求めてきた結果、環境のことを考えてこなかったのではないのでしょうか。最近では、スーパーやコンビニでのレジ袋が有料化になり、環境について、見つめ直す第一歩が始まっています。私達が今できることは、ポイ捨てはしないことです。自分が住んでいないから、関係ないという気持ちにならず、もし捨てた場所が自分の庭だったらと考えるみてください。

令和4年度「春のごみゼロ運動」実施報告

5月29日(日)【西暦は5月5日(休)】に行われた「春のごみゼロ運動」の実施結果です。

支部名	人数(人)			空き缶(本)	空きびん(本)	ペットボトル(本)	燃やすごみ(袋または箱)	埋立ごみ(袋または箱)	金属資源(袋または箱)
	大人	子供	計						
下山	344	5	349	21	8	8	25	7	6
東 鼎	98	0	98	4	3	1	7	2+2.0kg	2
西 鼎	68	16	84	0	0	0	9	0	1
下茶屋	133	23	156	11	19	16	4	1+7.0kg	1+1.0kg
中 平	266	15	281	27	3	21	27	3	5
上茶屋	62	2	64	6	0	5	2	1	1
切 石	515	28	543	17	6	12	19	3+3.3kg	0+2.9kg
上 山	461	22	483	65	10	24	13	2	2
一 色	178	12	190	25	6	7	7	0+8.5kg	0+1.0kg
名古屋	304	35	339	53	12	53	24	7	7
合計	2,429	158	2,587	229	67	147	137	23+11.8kg	26+12.9kg+1.0kg
その他	車(軽トラック2台)、乾電池5個、スプーン1本、車のバンパーから1個、ボール1個、傘の骨1本、タバコ吸い殻、飲物容器、ビニール多数、ガラス片1個、鉛片1個、ビン1個、ひげそり、車のヘッドライト、風呂のマット、ゴルフボール、ホイールキャップ、ライター3個、タフソ								

皆様のおかげで多くの場所がきれいになりました。ご協力ありがとうございました！



ごみを早く捨ててしまいたい気持ちには分かりますが、ごみ箱のある場所、あるいは家へ持ち帰り、きちんと分別して処理をしましょう。きれいな海と生物を守るためにも。家庭から出たごみは、しっかりと分別して、きっちりリサイクルして、ごみを減らすことも大切だと思います。一人ひとりの心がけて住みやすいまちにするために、環境美化に努めたいものです。



県消防団100周年事業

私たち消防団はこの県を守るため、火災消火だけに限らず予防消防、水防、人命捜索、地震災害に対して訓練と活動を行っています。コロナ禍により十分な活動がこの2年ほど行えてはいませんが、日頃より地域の皆様にはご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

県消防団100周年記念事業の取組み

- 記念事業部
 - ・記念動画作成
 - ・地域との交流事業
- 記念誌部
 - ・記念誌作成
- 記念式典部
 - ・記念式典の開催(R5年2月19日予定)

今、私たちが活動を行えるのは、地域の皆様の多くの協力と、この飯田市鼎地区の前身となる「鼎町」から続く「鼎町消防団」の長きにわたる活動の積み重ねがあつてからこそです。

鼎消防誌をひも解くと「大正11年、西暦1922年1月26日 鼎消防組80名にて発足」記載とされています。

2022年の1月で100年続いできたこととなります。一言で100年といっても、この間には様々な災害、火災、歴史がありました。そして多くの消防団員の方々が関わり地域を



守り繋いできたのはまぎれもない事実です。そこで先輩方の今までの活動や歴史をたどり、現役団員の活動を取り入れながら「鼎消防団100周年事業」を今年度計画いたしました。記念式典を令和5年2月に行い、記念誌を3月に発行予定しています。また現役の団員による記念動画の作成を進めています。

100年の節目に、消防団の活動を地域の皆様に今一度知っていただき、消防を知らない方も、お子様達にも、この地域との結びつきを今一度見つめ直す機会にできたらと考えます。

鼎消防団がこれからも地域とともに発展し、大いに活動し地域を守る団体でいられるよう、今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局 関島和幸
(H25年度分団長)

春季非常招集訓練

5月29日に上山地区にて非常招集訓練を実施しました。消防団員の安全を確保した上で、円滑な消火活動を行うこ



水利確保の指導を受ける

とを目的として、火災発生から出動して消化し鎮火するまでの訓練を実戦形式で行いました。

訓練では、火災発生からスムーズな出動ができましたが、現場に到着してから水利の確保に手間取ってしまう場面もありました。しかし伊賀良消防署の方からの指導もあり無事に放水まで行うことができました。実際の火災でも現場によって状況が様々だと思うので、どんな場面にも対応できるような訓練を繰り返していきたいと思えます。

訓練に協力して頂いた、上山区、伊賀良消防署をはじめ多くの皆様方に御礼申し上げます。

総合水防訓練に参加

5月22日(日)午前、天竜川河川敷にて、総合水防訓練が行われ、飯田下伊那地区の消防団が参加し、15分団からも本部長4名が参加しました。訓練では、天竜川上流域での大規模災害に備え、堤防の決壊や土砂崩落を防ぐために土のう作りや堤防へのシート張り訓練を行いました。

今回学んだことを、有事の際に実行できるよう、普段から備えておきたいと思えます。

操法訓練 がんばりました!

6月5日に飯田市操法技術大会が予定されていましたが、コロナの影響で延期となり、7月31日に大会に代わり予定された成果発表会も中止となつてしまいました。第15分団では、これらの大会に向け、日々練習を行ってきましたが披露する機会が無くなり残念です。しかし練習を通して身につけた技術は今後有事の際に必ず役立ちます。地域のため引続き訓練に励んでいきます。